

# Citation 3

(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-154738

(43)公開日 平成8年(1996)6月18日

(51)Int.Cl.  
A 45 D 40/18

識別記号 庁内整理番号  
A

F I

技術表示箇所

### 審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全6頁)

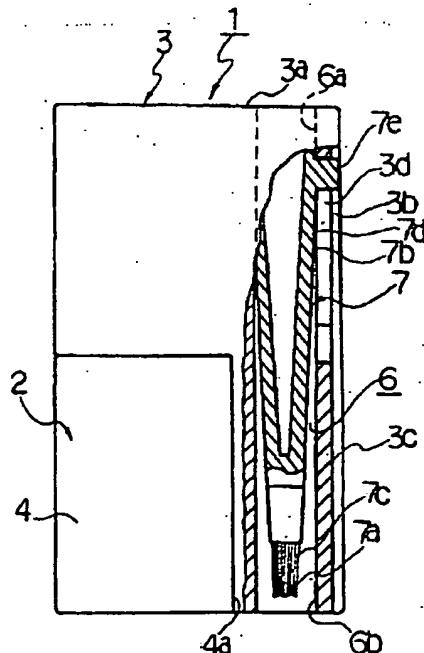
(21)出願番号 (22)出願日	特願平6-303527 平成6年(1994)12月7日	(71)出願人 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号 (72)発明者 ▲吉▼井 圭二 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会 社作成部内 (72)発明者 磯谷 和子 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会 社作成部内 (74)代理人 弁理士 羽島 修 (外1名)
---------------------	--------------------------------	---

(54)【発明の名称】 口紅容器

#### (57)【要約】

【目的】 蓋体内に紅筆を収納した使い易い新規な口紅容器の提供。

【構成】 容器本体2と、容器本体2に装着される蓋体3とを備えた口紅容器1において、蓋体3に、蓋体3の長さ方向の両端部の少なくとも一方に開口部6bを有し、且つ蓋体3の長さ方向に延びる紅筆収納室6が形成されており、紅筆収納室6内に、その長さ方向に移動自在で、且つ開口部6bより筆先7aが突出可能なように紅筆7が収納されていること特徴とする口紅容器。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器本体2と、該容器本体2に装着される蓋体3とを備えた口紅容器1において、上記蓋体3に、該蓋体3の長さ方向の両端部の少なくとも一方に開口部6bを有し、且つ該蓋体3の長さ方向に延びる紅筆収納室6が形成されており、該紅筆収納室6内に、その長さ方向に移動自在で、且つ上記開口部6bより筆先7aが突出可能なように紅筆7が収納されていること特徴とする口紅容器。

【請求項2】 上記紅筆7が、上記蓋体3を上記容器本体2に装着するときに該容器本体2を臨む側に筆先7aを向けて収納されていることを特徴とする請求項1に記載の口紅容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、口紅容器に係わり、特に、蓋体に紅筆が収納された口紅容器に関する。

## 【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 周知のように、口紅容器は、口紅が植設された枠体を内部に備えた容器本体と、この容器本体に装着される蓋体とから構成されており、蓋体を取り外して上記口紅を突出させ、直接唇に塗るかあるいは紅筆で適量を取って使用されるものである。

【0003】 ところで、従来の口紅容器では、紅筆を使用する場合には、これらを個別に携帯しなければならないほか、化粧ポーチ等から取り出して使用する際にも、口紅の色を誤らないように選出しなければならず、面倒であった。

【0004】 一方、上述の点を考慮して、実開昭55-105009号公報に記載されたような、蓋体にヒンジを介して開閉自在に紅筆収納部を設けたものや、実開昭61-45023号公報に記載の、容器本体の底部に紅筆を収納するものなどが提案されているが、いずれの場合にも蓋体及び容器本体とは別体の紅筆を収納しておくため、口紅を塗布する場合には、容器本体から蓋体を取り外すほかに、別体である紅筆を取り出して塗布しなければならず、取り扱いが面倒であった。

【0005】 本発明の目的は、蓋体内に紅筆を収納した使い易い新規な口紅容器を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明の請求項1に記載の発明は、容器本体と、該容器本体に装着される蓋体とを備えた口紅容器において、上記蓋体に、該蓋体の長さ方向の両端部の少なくとも一方に開口部を有し、且つ該蓋体の長さ方向に延びる紅筆収納室が形成されており、該紅筆収納室内に、その長さ方向に移動自在で、且つ上記開口部より筆先が突出可能なように紅筆が収納されていること特徴とする口紅容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0007】 また、本発明の請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の口紅容器において、上記紅筆7が、上記蓋体3を上記容器本体2に装着するときに該容器本体2を臨む側に筆先7aを向けて収納されていることを特徴とする口紅容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

## 【0008】

【作用】 本発明の請求項1に記載の口紅容器においては、未使用時には、紅筆は、紅筆収納室内に収納されており、この状態で蓋体が容器本体に装着される。使用に際しては、蓋体を容器本体から取り外し、上記紅筆を蓋体の長さ方向に移動させて上記開口部より毛先を突出させて適量の口紅を筆先に取って唇に塗布する。

【0009】 本発明の請求項2に記載の口紅容器においては、上記請求項1に記載の口紅容器における作用に加えて、上記紅筆が、上記蓋体を上記容器本体に装着するときに該容器本体を臨む側に筆先を向けて収納されているので、当該蓋体を容器本体から取り外したあと、蓋体を持ち代えずにそのまま筆先を突出させて紅筆が使用される。

## 【0010】

【実施例】 以下、本発明の実施例を添付図面を参照しながら詳細に説明する。

【0011】 図1ないし図2は、本発明に係る口紅容器の第1実施例を示したものである。これらの図において、符号1は、口紅容器を示している。

【0012】 図1(a)に示したように、上記口紅容器1は、容器本体2と、この容器本体2に装着される蓋体3とを備えた概略構成とされている。

【0013】 図1(b)に示したように、上記容器本体2は、外周部に平坦面部4aを有する筒状の柄部4を備えており、当該柄部4をその軸回りに回動させることによって、枠(図示せず)に植設された口紅5を筒状部材4bの先端開口部より突出させるとともに、内部に収納させ得る従来公知の機構(図示せず)を内部に備えているものである。

【0014】 上記蓋体3は、天板部3aを有して外観筒状に形成されており、その側壁部3bには、上記平坦面部4aに対応するように、当該蓋体3の長さ方向に延出する延出部3cが形成されている。この延出部3cの延出長さは、その下端面が、当該蓋体3を上記容器本体2に装着したときに容器本体2の底面と略面となる長さに設定されている(図2参照)。図2に示したように、この延出部3c及びこれに連続する蓋体3の側壁部3b内には、これらを縦に貫いて長さ方向に延び、且つその長さ方向の両端部に上端開口部6a及び下端開口部6bを有する紅筆収納室6が形成されている。また、蓋体3の側壁部3bには、上記紅筆収納室6に連通するように長さ方向に延びるガイドスリット3dが形成されている。

50

【0015】上記紅筆収納室6内には、蓋体3を上記容器本体2に装着するときに当該容器本体2を臨む側に筆先7aに向けて紅筆7が収納されている。紅筆7は、内部が中空の筆本体7bを主体として構成されており、この筆本体7bの先端部に毛7cが植毛されたものである。また、筆本体7bの周壁部には、弹性変形可能な片部7dが形成されており、この片部7dには上記ガイドスリット3dに挿通可能な操作突起7eが起立形成されている。そして、上記片部7dがガイドスリット3dの内側周縁部に接接着して紅筆が所望位置で固定されるようになしてある。

【0016】上記構成の口紅容器1は、未使用時には、図2に示したように、紅筆7は筆先7aを含めて全体が紅筆収納室6内に収納されており、この状態で蓋体3が容器本体2に装着されている。使用に際しては、蓋体3を容器本体2から取り外して口紅5を突出させるとともに、図3に示したように、上記操作突起7eをガイドスリット3dに沿ってスライドさせて紅筆収納室6の下端開口部6bより筆先7aを突出させる。そして、適量の口紅を筆先7aで取って唇に塗布する。また、蓋体3を装着した状態において、上記操作突起7eをガイドスリット3dに沿ってスライドさせて筆先7aを突出させることによって、仕上げ、手直し等が簡単になされる。

【0017】このように、本実施例に係る口紅容器1によれば、未使用時には蓋体3の延出部3cおよびこれに連続する側壁部3bに形成された紅筆収納室6内に紅筆7を収納することができるので、ポーチ等から紅筆と口紅容器とを別々に選び出す手間がいらず、便利であるとともに、誤って別色の口紅へ使用することを回避することができる。また、筆先7aが乱れることがなく、筆先7aに付着した口紅も他ものに移ることがない。

【0018】また、使用に際しては、比較的に太い蓋体3を柄として使用できるので、唇の輪郭などの細かい作業を行いやすいほか、紅筆7aの使用時に従来のように蓋体が邪魔にならなく、蓋体3を容器本体2から取り外してこれを持ち変えることなく筆先7aを突出させて使用することができる。しかも、容器本体2において口紅5を突出させてこれを唇に直接塗布する場合にも何等支障を来すことがない。

【0019】さらに、容器本体2の柄部4に平坦面部4aを形成するとともに、この平坦面部4aに対応して上記延出部3dを形成し、その内部に上記紅筆収納室6を形成したので、容器の長さが不必要に長くならず、済み、容器を小型化できるほか、蓋体3を容器本体2に装着した状態でも紅筆7の筆先7aを突出させて使用することができる。

【0020】図4及び図5は、本発明に係る口紅容器の第2実施例を示したものである。なお、これらの図において、符号11は、口紅容器を示している。

【0021】図4(a)に示したように、上記口紅容器

11は、容器本体12と、この容器本体12に装着される蓋体13とを備えた概略構成とされており、基本的に上記第1実施例と同様の構成を有している。

【0022】図4(b)及び図5に示したように、上記容器本体12は、外周部に、その長さ方向へ延びる断面が略U字状の溝14aを有する筒状の柄部14を備えており、当該柄部14をその軸回りに回動させることによって、袴(図示せず)に植設された口紅15を筒状部材14bの先端開口部より突出させるとともに、内部に収納させることができる従来公知の機構(図示せず)を内部に備えているものである。なお、上記溝14aの上端部には、後述する紅筆17の操作突起17eが係合される係合凹部14cが形成されている。

【0023】上記蓋体13は、天板部13aを有した外観筒状に形成されており、その側壁部13bには、上記溝14aに対応するように、当該蓋体13の長さ方向に延出する延出部13cが形成されている。この延出部13cの延出長さは、その下端面が、当該蓋体13を上記容器本体12に装着したときに容器本体12の底板部12aの上面に略当接する長さに設定されている。この延出部13c及びこれに連続する蓋体13の側壁部13b内には、これらを縦に貫いて長さ方向に延び、且つ下端開口部16bを有する紅筆収納室16が形成されている。また、蓋体13の側壁部13bには、上記紅筆収納室16に連通するように長さ方向に延びるガイドスリット13dが形成されている。なお、このガイドスリット13dは、蓋体13を容器本体12に装着した際に、上記溝14a内に納まる位置に形成されている。

【0024】上記紅筆収納室16内には、蓋体13を上記容器本体12に装着するときに当該容器本体12を臨む側に筆先17aに向けて紅筆17が収納されている。紅筆17は、内部が中空の筆本体17bを主体として構成されており、この筆本体17bの先端部に毛17cが植毛されたものである。また、筆本体17bの周壁部には、弹性変形可能な片部17dが形成されており、この片部17dには上記ガイドスリット13dに挿通可能な操作突起17eが起立形成されている。そして、蓋体13を容器本体12に装着した状態では、この操作突起17eが上記溝14aの係合凹部14cに係合し、蓋体13を容器本体12から取り外す際に操作突起17eが下方にスライドして筆先17aが上記下端開口部16bから突出するようになしてある。

【0025】本実施例に係る口紅容器11においては、上記第1実施例における蓋体3を容器本体2に装着した状態で紅筆7を使用することができるという効果を除いて、同実施例と同様の効果を得ることができるほか、容器本体12から蓋体13を取り外すと同時に筆先17aが突出するので、便利である。

【0026】また、蓋体13を容器本体12に装着した状態でも上記操作突起17eや、ガイドスリット13d

が外観状表ないので、デザイン的にも優れている。

【0027】図6～図8は、本発明に係る口紅容器の第3実施例を示したものである。これらの図において符号21は、口紅容器を示している。図6に示したように、上記口紅容器21は、容器本体22と、この容器本体22に装着される蓋体23とを備えた概略構成とされている。

【0028】図7に示したように、上記容器本体22は、柄部24をその軸回りに回動させることによって、柄(図示せず)に植設された口紅25を筒状部材24aの先端開口部より突出させるとともに、内部に収納させることができると從来公知の機構(図示せず)を内部に備えているものである。

【0029】上記蓋体23は、天板部23aを有して外観筒状に形成されており、その側壁部3b内には、これらを縦に貫いて長さ方向に伸び、且つその長さ方向の上端部に上端開口部26aを有する紅筆収納室26が形成されている(図8参照)。また、蓋体23の側壁部23bには、上記紅筆収納室26に連通するように長さ方向に伸びるガイドスリット23dが形成されている。

【0030】図8に示したように、上記紅筆収納室26内には、上記上端開口部26aから外部を臨むように筆先27aを向けて紅筆27が収納されている。紅筆27は、内部が中空の筆本体27bを主体として構成されており、この筆本体27bの先端部に毛27cが植毛されたものである。また、筆本体27bの周壁部には、弹性変形可能な片部27dが形成されており、この片部27dには上記ガイドスリット23dに挿通可能な操作突起27eが起立形成されている。そして、上記片部27dがガイドスリット23dの内側周縁部に接して紅筆が所望位置で固定されるようになしてある。

【0031】本実施例に係る口紅容器21においては、未使用時には蓋体23の側壁部3bに形成された紅筆収納室26内に紅筆27を収納することができるので、ポーチ等から紅筆と口紅容器とを別々に選び出す手間がいらず、便利であるとともに、誤って別色の口紅へ使用することを回避することができる。また、筆先27aが乱れることなく、筆先27aに付着した口紅も他ものに移ることがない。

【0032】また、使用に際しては、比較的に太い蓋体23を柄として使用できるので、唇の輪郭などの細かい作業を行なうのが、紅筆27aの使用時に從来のように、蓋体が邪魔にならず、容器本体22において口紅25を突出させてこれを唇に直接塗布する場合にも何等支障を来すことがない。

【0033】さらに、図8に示したように、蓋体23を容器本体22に装着した状態でも紅筆27の筆先27a

を突出させて使用することができるので、仕上げ、手直し等も簡単に行なうことができる。

【0034】本発明に係る口紅容器は、上記実施例に限定されるものではなく、本発明の目的を逸脱しない範囲において、その寸法、形状等を適宜変更することができることはいうまでもない。

【0035】

【発明の効果】本発明に係る口紅容器によれば、以下の効果を奏すことができる。請求項1に記載の口紅容器では、蓋体に紅筆を収納する紅筆収納室を設けるとともに、この紅筆収納室内に紅筆をその長さ方向に移動させて筆先が突出可能に収納したので、蓋体を取り外してそのまま紅筆として使用することができ、従来に比べて使い易い。

【0036】請求項2に記載の口紅容器によれば、上記効果に加えて、蓋体を容器本体から取り外して持ち代えることなく紅筆の毛先を突出させることができるので、さらに使い易い。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る口紅容器の第1実施例を示す図であり、(a)は未使用時の状態を示す斜視図、(b)は蓋体を取り外して使用時の状態を示す斜視図である。

【図2】同第1実施例の口紅容器の要部を断面視した側面図である。

【図3】同第1実施例の口紅容器の紅筆を使用している状態を示す斜視図である。

【図4】本発明に係る口紅容器の第2実施例を示す図であり、(a)は未使用時の状態を示す斜視図、(b)は蓋体を取り外して使用時の状態を示す斜視図である。

【図5】同第2実施例の口紅容器の要部を断面視した側面図である。

【図6】本発明に係る口紅容器の第3実施例を示す斜視図である。

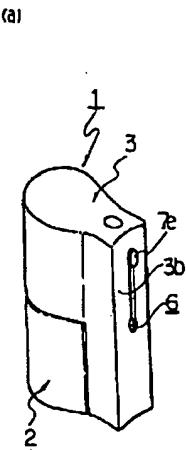
【図7】同第3実施例の口紅容器における蓋体をはずして紅筆を突出させた状態を示す斜視図である。

【図8】同第3実施例の口紅容器において、蓋体を容器本体に装着して紅筆を突出させた状態を示す要部を断面視した側面図である。

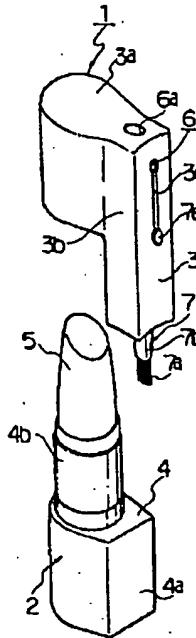
【符号の説明】

- 1、11、21 口紅容器
- 2、12、22 容器本体
- 3、13、23 蓋体
- 6、16、26 紅筆収納室
- 6b、16a、26a 開口部
- 7、17、27 紅筆
- 7a、17a、27a 筆先

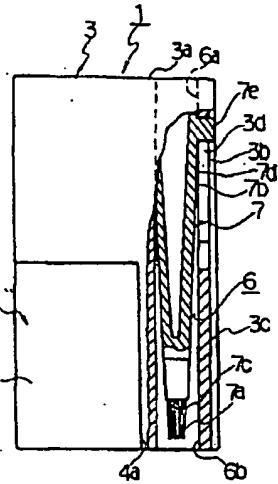
【図1】



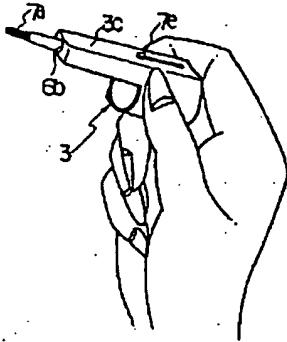
【図1】



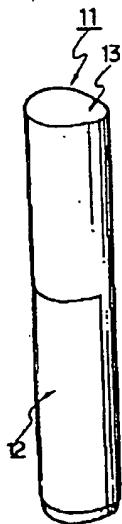
【図2】



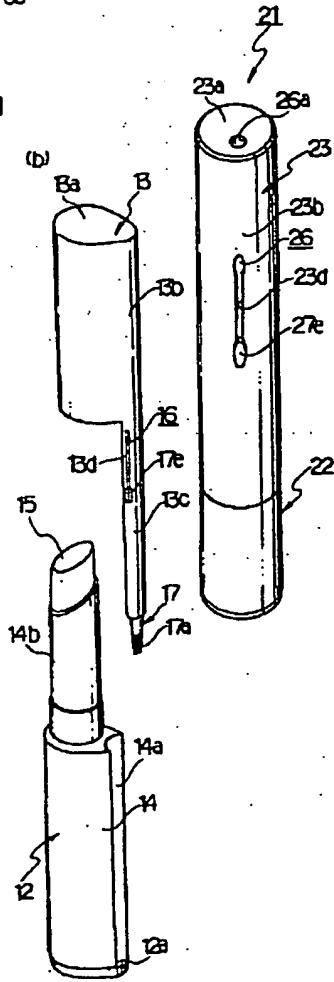
【図3】



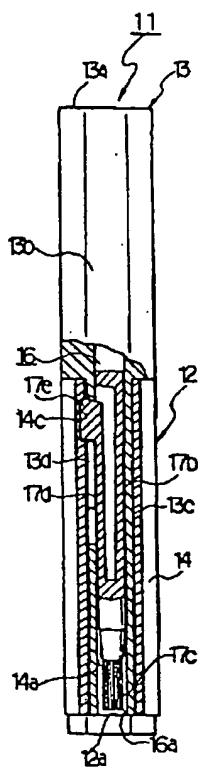
【図6】



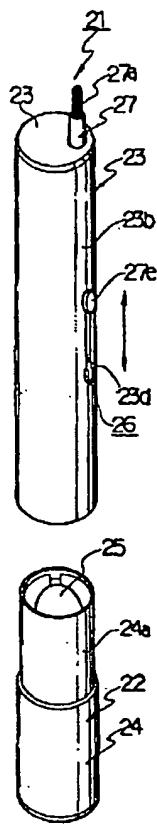
【図4】



【図5】



【図7】



【図8】

